

これまでの実証実験

環境価値によるサービス利用に向けて（電力取引分科会A/2023年3月実施）

電力取引分科会では、電力の売買に伴う決済にデジタル通貨DCJPYを活用し、グリーン電力の利用証明や再生可能エネルギーを活用した新たなサービスなどの検討を進めています。

実証実験では、バスの乗車運賃の決済に環境価値の取引経過が記録されたデジタル通貨DCJPYを使用することにより、ユーザーが保有する環境価値が公共交通機関（バス会社）に移転されることを実証するとともに、環境価値がバス利用の対価となりうることを明確にしました。この実証実験により、ブロックチェーン技術を利用したデジタル通貨DCJPYの活用領域の拡大と、環境価値の二次流通市場の実現に向けた検討を深めていきます。

（*本実証実験は、制約のある環境価値の二次利用（転売）が可能と仮定し、2023年3月時点の情報を整理した内容に基づき実施したものです。）



※実証実験内の設定や名称等は、2023年3月時点の検討に基づくものです。